

Cisco Security Manager 3.0.1 : ポスト サーバインストール用自己署名証明書の生成

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[自己署名証明書の作成](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、サーバの信頼できるルート証明書のリストで自己署名証明書を作成する方法について説明します。

前提条件

要件

証明書を作成する前に、「[インストール後のサーバタスク](#)」の「[すぐに完了する必要があるサーバタスク](#)」セクションに記載されているステップ 1、2、および 3 を完了してください。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

自己署名証明書の作成

「[すぐに完了する必要があるサーバタスク](#)」のステップ 4 はサーバに自己署名証明書をセットアップする方法を説明しています。次の手順では、自己署名証明書を使用して、HTTPS を介して Cisco Security Manager サーバにアクセスする方法を案内します。

1. [Security Alert] ダイアログボックスが表示され、自己署名証明書の承認、拒否、または検証

を求められます。このダイアログボックスはサーバに接続するたびに表示されます。

2. [Yes] をクリックして、その特定のセッションに対して自己署名証明書を承認します。HTTPS を介して Cisco Security Manager に接続するたびにこのプロンプトが表示されるのを回避するには、[Yes] の代わりに [View Certificate] をクリックします。
3. 新しいウィンドウが開き、「Issued to」= 「issued by」で表示されます。これは、自己署名証明書であることを意味します。
4. [Install Certificate] をクリックして、自己署名証明書をインストールし、Cisco Security Manager に接続したときにプロンプトが表示されないようにします。

注：自己署名証明書をインストールすると、[セキュリティ警告]ダイアログボックスによるプロンプトが表示されなくなります。信頼できるルート証明書のリストに自己署名証明書を追加することはオプションです。

関連情報

- [Cisco Security Manager](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)